

研究ノート

スポーツの価値意識に関する研究 －中高生における日英比較－

A study of Value Consciousness of Sport － Comparative Study of Japan and British junior and senior high school students －

山村 伸

Shin YAMAMURA

Abstract

In this study, the value consciousness of the sport was compared Japan and British junior and senior high school students. As a result, It was suggested that "collectivism" of Japan and the "individualism" of Britain had effected the value consciousness of sport.

Key words : sport, value consciousness, collectivism, individualism

I はじめに

今日、人々のスポーツに対する取り組みは多岐にわたっている。それに伴い、スポーツに対する価値意識も多様化していると考えられる。さらに、その背景にある文化や環境の相違によって価値意識が異なることが推察される。

日本におけるスポーツの価値意識に関する研究は上杉の類型に関する研究や^{1) 2)}、永吉ら³⁾をはじめ、おもに高校生や大学生を被験者とし、スポーツ価値意識の類型、質問紙の作成及び関連要因との検討などの報告がみられる。

諸外国との異文化間研究においては浅沼ら⁴⁻⁶⁾をはじめとし、おもに中国や韓国などのアジア諸国を対象として、それぞれの国の特徴を明らかにしている。しかし、スポーツの価値意識における異文化間の研究は、サンプルの確保が比較的容易であるという理由などから、日本と同じアジア圏を対象としたものが多く、特に中高生を対象としたものはほとんど見受けられない。

中高生のスポーツの価値意識を明らかにすることは、スポーツを行う個人・集団における意識傾向を把握し、学校教育の現場などにおいては対象の興味や動機づけを高め、より効果的な指導を行う際の有益な情報になり意義があると考えられる。またそれらを異文化間同士で比較することで、初めてその国の特色を導きだせると考えられる⁷⁾。

そこで本研究では、日本と国民性、文化、風土などが大きく異なると考えられるヨーロッパ圏の英国に着目し、日英の中高生におけるスポーツの価値意識を比較・検討することとした。

II 研究方法

1. 調査対象

1) 日本

首都圏の私立学校における運動部所属者、中学・高校生 740 名（男子 428 名、女子 312 名）、平均年齢は 15.7 ± 1.62 歳であった。

2) 英国

West Sussex・Surrey 州の私立学校における運動部所属者、中学・高校生 240 名（男子 184 名、

女子 56 名）、平均年齢は 14.9 ± 1.96 歳であった。

2. 調査期間

2007 年 3 月～6 月に行った。

3. 調査内容

1) スポーツにおける価値意識尺度

Lee らの作成した 18 項目からなる Youth Sport Values Questionnaire（以下 YSVQ）を用いた。

2) 日本

Lee ら⁸⁾が作成した YSVQ の全 18 項目を筆者らが邦訳した後、英国在住の日本人英語教諭 2 名により添削されたものを採用した。形式は「私がスポーツを行うとき重要なのは…」という文章に続いて各項目が続くものであり、回答は間隔尺度として分析することや回答者の負担を考慮し Lee らの 7 件法から 4 件法に修正して行われ、各項目に対してどの程度当てはまるかについて「1. 全く重要ではない」から「4. 非常に重要である」のうちからひとつを選択させ、4 段階評価に対して 1 点～4 点と得点化した。

3) 英国

Lee らの作成した 18 項目からなる YSVQ の原版を用いた。得点化の方法などは全て日本語版と同様に 4 件法を用いた。尚、形式は「When I play sports it is important to me that …」という文章に各項目が続くものである。

4. 手続き

1) 日本

学校側から調査の承諾が得られた後に、質問紙法調査によってホームルームの時間を用いて実施された。

2) 英国

学校側から調査の承諾が得られた後に、ホームルーム及び体育の授業時間を利用し、質問紙調査法によって実施された。なお日本・英国共に回答の際には質問用紙の回答結果が本研究以外の目的で使用されることはなく、回答者に不利益が被ることがないようにプライバシーは厳重に守られることを説明した。

3) 分析

得られた回答は、SPSS for windows 13.0J を用いて各項目毎に t 検定を行い比較・検討した。

Ⅲ 結果及び考察

表1 日本人男子生徒のYSVQ 平均得点

項目	平均得点
1 面白く遊び自分自身楽しむことである	3.51
2 自分のパフォーマンスを上達させることである	3.38
3 よいスポーツマンシップを示すことである	3.27
4 いつもルールを守ってプレーすることである	3.40
5 フェアになるように努めることである	3.34
6 助けを必要としている人々を助けることである	2.95
7 他の人々の弱さを受け入れることである	2.80
8 上手にプレーすることである	3.14
9 言われたことをやるようにすることである	2.84
10 みんなが一緒にいるようにすることである	2.89
11 周りの人々をガッカリさせないことである	2.78
12 興奮する競争をすることである	2.97
13 健康を維持することである	2.78
14 プレー中にわくわくするか気分が良いと感じることである	3.40
15 他の人達に良い印象を示すことである	2.76
16 物事を仲間と一緒にすることである	3.23
17 他の人皆と協力することである	3.30
18 他の人より自分が優れていることを示すことである	2.37

表4 英国人女子生徒のYSVQ 平均得点

項目	平均得点
1 I enjoy myself and have fun	3.75
2 I improve my performance	3.41
3 I show good sportsmanship	3.27
4 I always play properly	3.13
5 I try to be fair	3.32
6 I help people when they need it	3.36
7 I accept other people's weaknesses	3.45
8 I perform the skills or techniques well	2.98
9 I do what I'm told	3.14
10 I make sure that we all stick together	3.05
11 I don't let people down	3.05
12 It is an exciting contest	3.07
13 I play to get fit	2.84
14 I get a buzz or feel really good whilst playing	3.36
15 I show a good image to others	2.55
16 I do things with my mates	3.27
17 I go along with everybody else	2.63
18 I can show that I am better than others	2.29

表2 日本人女子生徒のYSVQ 平均得点

項目	平均得点
1 面白く遊び自分自身楽しむことである	3.50
2 自分のパフォーマンスを上達させることである	3.19
3 よいスポーツマンシップを示すことである	3.16
4 いつもルールを守ってプレーすることである	3.44
5 フェアになるように努めることである	3.31
6 助けを必要としている人々を助けることである	3.24
7 他の人々の弱さを受け入れることである	3.09
8 上手にプレーすることである	2.96
9 言われたことをやるようにすることである	3.07
10 みんなが一緒にいるようにすることである	3.08
11 周りの人々をガッカリさせないことである	2.68
12 興奮する競争をすることである	2.74
13 健康を維持することである	3.11
14 プレー中にわくわくするか気分が良いと感じることである	3.32
15 他の人達に良い印象を示すことである	2.62
16 物事を仲間と一緒にすることである	3.44
17 他の人皆と協力することである	3.57
18 他の人より自分が優れていることを示すことである	2.02

表5 日・英男子生徒のYSVQ 平均得点の比較

項目	日本人男子	英国人男子	t
1	3.51	3.73	-3.82 **
2	3.38	3.43	-0.711
3	3.27	3.12	2.15
4	3.40	2.89	7.31 **
5	3.34	2.93	6.09
6	2.95	2.99	-0.59
7	2.80	2.55	3.2 **
8	3.14	3.03	1.47
9	2.84	2.52	3.97
10	2.89	2.86	0.28
11	2.78	3.03	-3.27 **
12	2.97	3.20	-2.77 **
13	2.78	3.01	-2.66
14	3.40	3.36	0.61
15	2.76	2.63	1.65
16	3.23	3.11	1.69
17	3.30	2.30	13.54 **
18	2.37	2.42	-0.55

*p<.05 **p<.01

表3 英国人男子生徒のYSVQ 平均得点

項目	平均得点
1 I enjoy myself and have fun	3.73
2 I improve my performance	3.43
3 I show good sportsmanship	3.12
4 I always play properly	2.89
5 I try to be fair	2.93
6 I help people when they need it	2.99
7 I accept other people's weaknesses	2.55
8 I perform the skills or techniques well	3.03
9 I do what I'm told	2.52
10 I make sure that we all stick together	2.86
11 I don't let people down	3.03
12 It is an exciting contest	3.20
13 I play to get fit	3.01
14 I get a buzz or feel really good whilst playing	3.36
15 I show a good image to others	2.63
16 I do things with my mates	3.11
17 I go along with everybody else	2.30
18 I can show that I am better than others	2.42

表6 日・英女子生徒のYSVQ 平均得点の比較

項目	日本人女子	英国人女子	t
1	3.50	3.75	-2.66 **
2	3.19	3.41	-1.96
3	3.16	3.27	-0.97
4	3.44	3.13	2.95 **
5	3.31	3.32	-0.10
6	3.24	3.36	-1.21
7	3.09	3.45	-3.14 **
8	2.96	2.98	-0.16
9	3.07	3.14	-0.69
10	3.08	3.05	0.23
11	2.68	3.05	-3.01 **
12	2.74	3.07	-2.66 **
13	3.11	2.84	1.87
14	3.32	3.36	-0.41
15	2.62	2.55	0.54
16	3.44	3.27	1.65
17	3.57	2.63	7.45 **
18	2.02	2.29	-1.86

*p<.05 **p<.01

1. YSVQ 平均得点

表1から表4に日本人男子・女子、英国人男子・女子のYSVQ平均得点を示した。表5、表6に性別毎での平均得点の比較結果を示した。

1) 日英男子生徒の比較

男子生徒でのYSVQの項目比較では、項目4「いつもルールを守ってプレーすることである」、項目7「他の人々の弱さを受け入れることである」、項目17「他の人皆と協力することである」の3項目で日本人の男子生徒が有意に高く、項目1「面白く遊び自分自身楽しむことである」、項目11「周りの人々をガッカリさせないことである」、項目12「興奮する競争をすることである」の3項目で英国人の男子生徒の得点が有意に高い結果が得られた（尚、質問項目を記載する際には、便宜上日本語訳したものを採用した）。

これらのことから、日本人の男子生徒においては、ルールを守ることや協力すること、周りの人間の弱さを受け入れるなど、協調性に関する価値意識が高いと考えられる。英国人の男子学生においては、競争することやスポーツを楽しむ、あるいは周りをガッカリさせないようなプレーをするなど、周囲の人間との関わりよりも自分自身が良いプレーをし、スポーツそのものを楽しむといったことに関する価値意識が高いと考えられた。

2) 日英女子生徒の比較

女子生徒でのYSVQの項目比較では、項目4「いつもルールを守ってプレーすることである」、項目17「他の人皆と協力することである」の2項目で日本人の女子生徒の得点が有意に高く、項目1「面白く遊び自分自身楽しむことである」、項目7「他の人々の弱さを受け入れることである」、項目11「周りの人々をガッカリさせないことである」、項目12「興奮する競争をすることである」の4項目で英国人の女子生徒の得点が有意に高い結果が得られた。女子においても男子と同様に日本人の女子生徒では協調性に関する項目で得点が高く、英国人の女子生徒ではスポーツそのものに関する得点が高い傾向にあった。また、項目7「他の人々の弱さを受け入れることである」は英国人の女子学生が有意に高い結果が得られた。これは男子とは相反する結果だが、項目7の平均得点を

概観すると比較的女子において高い項目であると考えることができる。

3) 日英の比較

項目4「いつもルールを守ってプレーすることである」、項目17「他の人皆と協力することである」の2項目は日本人の生徒が男女共に共通して高く、項目1「面白く遊び自分自身楽しむことである」、項目11「周りの人々をガッカリさせないことである」、項目12「興奮する競争をすることである」の3項目は英国人の生徒が男女共通して高い得点を示した。これらのことにより、両国の国民性の1つと考えられる日本の「集団主義」、英国の「個人主義」がスポーツの価値意識に影響を及ぼしている可能性が示唆された。これは山村らの先行研究と同様の結果であった。

IV まとめ及び今後の課題

本研究では、日本と英国の中高生を対象として、Youth Sport Values Questionnaire (YSVQ) を用い、スポーツの価値意識の比較及び検討を行った。その結果、両国の国民性の1つと考えられる日本の「集団主義」、英国の「個人主義」がスポーツの価値意識に影響を及ぼしている可能性が示唆された。

今回の研究においては、人種を考慮せずに英国に在住している生徒を英国人としたこと、女子のサンプル数が少ないこと、運動部所属者のみを対象としたことなどが、結果に影響を及ぼしていることは否定できない。また、今回は項目毎の比較に止まったが、今後、十分なサンプル数を確保し、さらに精度の高い質問紙の作成が望まれる。

【参考文献】

- 1) 上杉正幸：大学生のスポーツ価値意識について4価値意識の類型化，香川大学教育学部研究報告第1部，64，(167-181)，1985.
- 2) 上杉正幸：スポーツ価値意識の類型化に関する一試論，香川大学教育学部研究報告，59，(1-19)，1983.
- 3) 永吉宏英，塚本真也，中大路哲：日本人のスポーツ価値意識の分析－体育大学生を事例として，大阪体育大学紀要，17，(87-95)，1986.

- 4) 浅沼道成：体育専攻学生におけるスポーツ価値意識の変容に関する研究，鹿屋体育大学研究紀要 7,(57-64),1992.
- 5) 浅沼道成，森司朗：体育専攻学生のスポーツ価値意識に関する研究 (II) 競技動機との関連から，鹿屋体育大学研究紀要,6,(111-118),1991.
- 6) 浅沼道成：体育専攻学生のスポーツ価値意識に関する国際比較研究 日本・韓国・中国を対象に，Artes liberals, 51,(185-200),1992.
- 7) 磯貝浩久：スポーツ心理学における異文化間研究の動向と課題，九州工業大学情報工学部紀要 9,(123-134),1996.
- 8) Lee, M.J., Whitehead J., Balchin, N : The measurement of values in youth sport
Development of the Youth Sport Values
Questionnaire, Journal of sport & Exercise
Psychology, 22, (307-326), 2000.